別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	（法人にあっては名称） 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	住所	（法人にあっては主たる事業所の所在地） 〒 708-0698 岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
本票作成	部署名：安全管理課		
主たる業種	分類コード 71	業種名：学術・開発研究機関	
事業の概要	原子力に係わる研究開発		

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	人形峠環境技術センター	岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地

特定事業者の該当要件	
	☑ ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 □ ②ﾊﾞｽ・ﾄﾗｯｸ100台、ﾀｸｼｰ250台以上 □ ③CO_2換算3,000t以上
	（●工場等の数 1 所 ●車両台数（②該当の場合） 台）

温室効果ガス排出量	基準年度（平成 24 年度）	（平成 28 ）年度排出量	目標年度（平成 29 年度）
	9,910 t CO_2	10,539 t CO_2	9,415 t CO_2

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	（平成 28 ）年度排出量
	①	人形峠環境技術センター	10,539 t CO_2
			t CO_2
			t CO_2
			t CO_2
			t CO_2
			t CO_2

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 25 年度 ～ 平成 29 年度 （ 5 箇年度）			
	□ 総排出量基準	（ 28 ）年度削減実績	目標削減率	目標達成
	☑ 原単位基準	△ 7.2 %	5.0 %	□ 達成 ☑ 未達

（原単位基準の削減目標を選択している場合に記入）	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量		
		基準年度	（ 28 ）年度	目標年度
	建物延床面積（工学研究施設のため） 延床面積：72,025㎡	0.1365 t CO_2/（㎡）	0.1463 t CO_2/（㎡）	0.1297 t CO_2/（㎡）

（該当事業者のみ記入）

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値（平成 28 年度）	達成率等

【削減状況の自己評価】

・電気の使用量は、製錬転換施設及び濃縮工学施設の休祭日における給排気設備の計画停止等の継続を行ったが、ウラン濃縮原型プラントの滞留ウラン回収作業及び濃縮工学施設での解体撤去作業の増加に伴い、全体で1.7%増加した。温室効果ガス排出量は、電気事業者排出係数が増加したことによる（約620ｔ-CO2増加）。

・重油の使用量は、ウラン濃縮原型プラントの滞留ウラン回収作業及び濃縮工学施設での解体撤去作業等に伴い、冬期の現場作業の増加など全体で2.6%増加（約50ｔ-CO2）した。

【推進体制】

・温室効果ガス排出の抑制等の取組みとして「温室効果ガス排出の抑制等の実施計画（5ヶ年計画）」を策定し、4年目の活動を実施している。
・業務品質保証推進委員会分科会において、省エネルギー活動と合わせて四半期毎に活動評価を行っている。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
平成25年度実施した取組	
①製錬転換施設	①休祭日における給排気設備の計画停止(継続) 製錬転換施設内部の設備・機器の解体(25年度実施分) 給排気設備の一部停止（1～3月）
②濃縮工学施設	②休祭日における給排気設備の計画停止(継続)
③上齋原分室	③上齋原分室の廃止
平成26・27年度実施した取組	
①製錬転換施設	①休祭日における給排気設備の計画停止(継続)
②濃縮工学施設	②休祭日における給排気設備の計画停止(継続) UF6操作室・ＢＬＤ室(精製フード)設備の解体撤去作業（H26年度） UF6操作室・ＢＬＤ室(分解フード)設備の解体撤去作業（H27年度）
③ウラン濃縮原型プラント	③滞留ウラン回収作業（H26年度～）
平成28年度実施した取組	
①製錬転換施設	①休祭日における給排気設備の計画停止(継続)
②濃縮工学施設	②休祭日における給排気設備の計画停止(継続) UF6操作室・ＢＬＤ室(除染フード)設備の解体撤去作業
③ウラン濃縮原型プラント	③滞留ウラン回収作業終了
今後の取組	
①ボイラ設備(池河地区)	①池河地区の熱水暖房用の熱水停止（継続）
②製錬転換施設	②休祭日における給排気設備の計画停止（継続）
③濃縮工学施設	③休祭日における給排気設備の計画停止（継続）
④ウラン濃縮原型プラント	④維持管理

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】